



鼻高公民館だより

発行：高崎市鼻高公民館 高崎市鼻高町 33-5 電話・FAX 322-9100
まなびネットたかさき HP <http://takasaki.manabi365.net/>



10・11月の
休館日

10月13日(月) スポーツの日
11月3日(月) 文化の日
11月23日(日) 勤労感謝の日



《事業報告》 生き生きセミナー開講



熱演される介護享楽珍さん

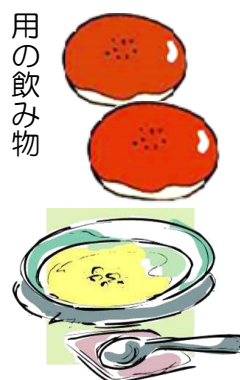
9月5日(金)から『生き生きセミナー』が始まりました。毎年好評のこのセミナーは全10回の講座で12月迄続きます。1回目は宮沢賢治の世界をピアノと朗読で平和を願い、2回目(9月12日)の介護享楽珍さんの創作落語「三途の川の渡り方」でこれからの生き方を考えました。

《参加者募集》

Ⅱ料理教室Ⅱ

はじめてのあんぱん作り教室

焼きたてのふわふわあんぱんを作ります。併せて季節の野菜を使ったコンソメスープを作り、その場で実食します。



【期日】令和7年10月24日(金)
【時間】午前9時30分～午後1時
【場所】鼻高公民館 1階実習室
【定員】8人(鼻高地区住民優先)
【費用】500円(材料費)
【講師】伊藤文子先生
【持ち物】エプロン、三角巾、手拭き用タオル、筆記用具、水分補給

【申込み】10月1日(水)～10月16日(木)、平日の午前9時～午後5時までに費用を添えて鼻高公民館まで申込みください。

生涯学習推進員主催事業 2講座 Ⅱ参加者募集Ⅱ

はなだか 花のまちづくり講座

プランターに花を植えて鼻高のまちを花で飾ります。花は各自宅に持ち帰るほか、公共施設に届け、鼻高全体をきれいな花で飾ります。



【期日】令和7年10月22日(水)
※雨天実施
【時間】午前9時30分～11時30分
【場所】鼻高公民館 駐車場
【対象】鼻高地区在住の人、15人
【費用】300円(花苗、肥料代等)
【用意する物】持ち帰り用のプラン

ター2個、軍手、帽子、移植ゴテ、汚れてもよい服装
【申込み】10月2日(木)、午前9時～10月15日(水)までに費用300円を添えて鼻高公民館へ申し込みください。

歴史の街 倉賀野宿フラフラ歩き



生涯学習推進員の隣町散策シリーズ。今回は「倉賀野観光ガイドの会」の案内で倉賀野駅から歴史と史跡を訪ねながらフラフラ歩きます。歩行距離は約4～5kmです。

【期日】令和7年11月7日(金)
※小雨決行(豪雨中止)
【時間】鼻高公民館へ午前8時30分集合、出発。(帰着は午後3時半頃)
【対象】鼻高地区在住の人、15人
【費用】480円(電車代)

【持ち物】ザック、昼食、雨具、帽子、歩きやすい服装と靴、その他各自が必要とする物
【申込み】10月2日(木)、午前9時から鼻高公民館で受け付けます。

わがまち

170



鼻高の四季

II 写真で綴る鼻高の宝 ③9

八幡の庄 八幡宮に纏わるトリビア

八幡の庄や八幡宮に纏わる事柄を更に続けます、

鎌倉街道「いざ鎌倉」

源義重は寺尾の館（その後の永福寺）を築き、また当時赤坂と呼ばれて現在の高崎市庁舎が在る付近に治承元年（1177）に興禅寺（現在は下横町）を建立しています。

興禅寺が高崎中心街でも古い歴史のある寺院と云われています。建立当時は広大な寺域で、現在の赤坂

町から市役所庁舎南に至る付近まで一帯に及んでいたそうです。ここが後の和田城・高崎城へと続く高崎市街地の原点だと云われています。この興禅寺が所蔵する古絵図に鎌倉街道らしきものを表す記載があります。現在の高崎市役所西側の烏川左岸の城南球場の付近を南北に「かまくらみ〇」と図示されています。これが鎌倉街道が現にあったと推測される根拠となっています。この当時（平安時代）八幡

の地は八幡の庄と称する莊園が広がっていましたが、かつての高崎の地は、碓氷川・烏川の河岸段丘上に沿って松林が連なる荒涼たる場所だったのではないかと話す歴史家もいます。



高崎中心街で最も古いという興禅寺（上写真）と鎌倉街道と推測される現在の道（右写真）

源三位頼政公と 宇治平等院鳳凰堂

源義重は、京都にあって国政や八幡の庄で莊園経営に活躍し、八幡の礎を築く

のですが、高崎市民である私たちにちょっとだけ関係する歴史上の史実が一つあります。

平安時代末期の平清盛死後に平氏の権勢も弱まり、朝廷より平家追放の勅書が出されます。これに呼応して伊豆に流配されていた源頼朝や木曾義仲が平家打倒の狼煙を挙げます。この時八幡の庄の源義重は群馬寺尾の館（永福寺）に於いて挙兵はするのですが、源頼朝には呼応せず独自の行動をとったそうです。

平家打倒で、最初に兵を挙げたのは源三位頼政公と称された源頼政です。以仁王（もちひとおう）を奉じて京都の宇治川で平家一門と戦うのですが、敗れ、宇治平等院鳳凰堂で戦死します。

この頼政の妻「あやめ御前」が遺児を抱え自分の生まれ故郷の伊豆長岡へ逃れ子どもを育てるのです。その源氏の血をひいた子孫が江戸時代に高崎藩の殿様・

大河内家となるのです。今でも高崎公園の隣に頼政神社が鎮座していますが、藩主の大河内家が先祖を祀ろうとして建立したものです。



高崎公園に隣接する頼政神社

江戸時代頼政神社を中心に盛大なお祭りが行われており、これが現在の高崎祭の原点ルーツだという人もいます。

あやめ御前が平家から逃れ、身を隠した伊豆長岡は温泉町です。温泉のPRや客寄せのために「源氏あやめ祭り」を7月1・2・3日で行い、JRの企画で高崎市民号という臨時列車を出すなどして、高崎と伊豆長岡は今でも友好関係を深めています。（次号に続く）